




報道発表資料の配付日時 3月24日(月) 15時00分

発表項目 (行事名)	釧路・根室地域の公共交通に関するアンケートの結果について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>北海道釧路・根室地域公共交通活性化協議会では、釧路・根室地域の公共交通に対する課題や問題点を把握するため、釧路・根室管内居住者を対象にアンケートを実施したところですが、この度、アンケート結果を取りまとめましたのでお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 実施期間 令和6年(2024年)12月1日(日) ～令和7年(2025年)1月31日(金)</p> <p>2 その他 アンケート結果は、下記ホームページでも公表しています。 URL:https://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/tisei/kotu/senkonkoukyoukoutu.html</p> 		
参考			

報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)釧路総合振興局記者クラブ	
	同時レク		

担当 (連絡先)	根室振興局地域創生部地域政策課長 丸山 勝之 TEL ダイヤルイン 0153-22-2809 (ダイヤルイン)		
-------------	------------------------------------------------------------	--	--

釧路・根室地域の 地域交通に関するアンケート 結果報告書



令和 7年 3月

北海道釧路・根室地域公共交通活性化協議会

1.本調査について

■本調査の概要

調査目的	釧路・根室地域の公共交通に対する課題や問題点を把握するため、アンケートを実施する。
調査期間	令和6年12月～令和7年1月
調査方法	Webアンケート(北海道電子申請システム) 記入式アンケート(市役所・町村役場、バスターミナル等にアンケート設置)
調査対象	釧路・根室地域に居住する地域住民
アンケート回答者数	292名(Webアンケート187名/記入式アンケート105名)
調査実施主体	北海道釧路・根室地域公共交通活性化協議会



記入式アンケート用紙

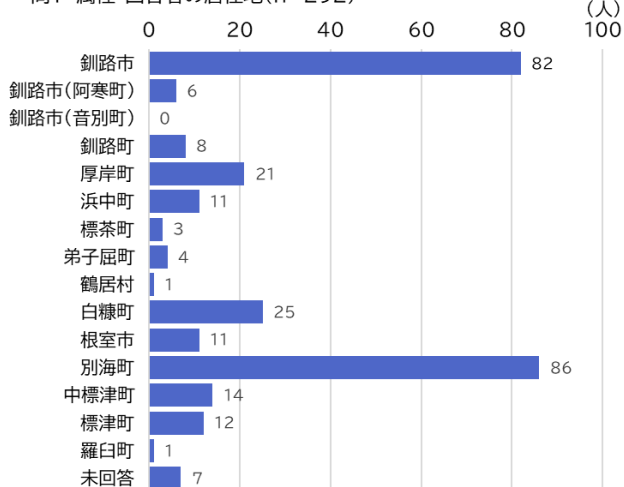
■アンケートの設問構成

1.回答者属性	居住地・年代・職業・運転免許の有無・自家用車の有無
2.日頃の主な交通手段	①バス ②JR ③タクシー ④自家用車 ⑤自転車 ⑥徒歩
3.公共交通機関を使う頻度	①週4日以上 ②週2～3日 ③週1日 ④月数回程度 ⑤年数回 ⑥使わない
4.移動区間別の利用目的・利用交通機関・利用時間帯	<p>移動区間 ①市町村移動 ②居住地から釧路市内 ③居住地から札幌市内</p> <p>公共交通機関を使う目的 ①通勤・通学 ②買い物 ③通院 ④出張・レジャー ⑤その他</p> <p>利用する公共交通機関 ①バス(民営) ②バス(市町村営) ③JR ④タクシー ⑤航空機 ⑥その他</p> <p>公共交通機関を利用する時間帯 ①6時～8時台 ②9時～11時台 ③12時～14時台 ④15時～17時台 ⑤18時～20時台 ⑥21時以降</p>
5.公共交通機関を利用しない(利用が少ない)理由	①料金が安い ②自宅から最寄りのバス停・駅まで遠い ③利用したい路線がない ④運行時間が合わない ⑤乗り方が分からない ⑥その他
6.公共交通機関に関する意見等(自由記入)	1)市町村営バス路線について 2)民営バス路線(くしろバス、阿寒バス、根室交通)について 3)JR路線について

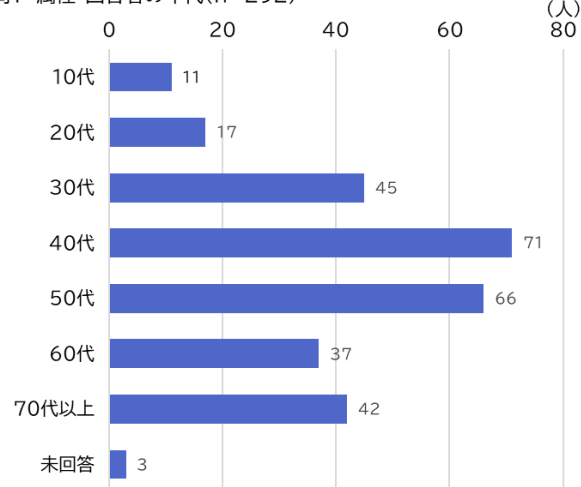
2.アンケート結果 | 回答者属性

本アンケートは292名から回答があった。居住地別にみると、「別海町」が86人ともっとも多い。次いで、「釧路市」82人、「白糠町」25人と続いている。釧路市音別町からは回答が得られなかった。年代別にみると、「40代」が71人ともっとも多く、「50代」66人、「30代」45人と続いている。回答者の職業別にみると、「会社員・公務員」が143人ともっとも多く、次いで、「その他」68人、「パート・アルバイト」35人と続いている。「その他」には、無職の方や年金生活者が含まれると推測される。また、回答者の242人が運転免許を保有し、236人が自家用車を保有している。

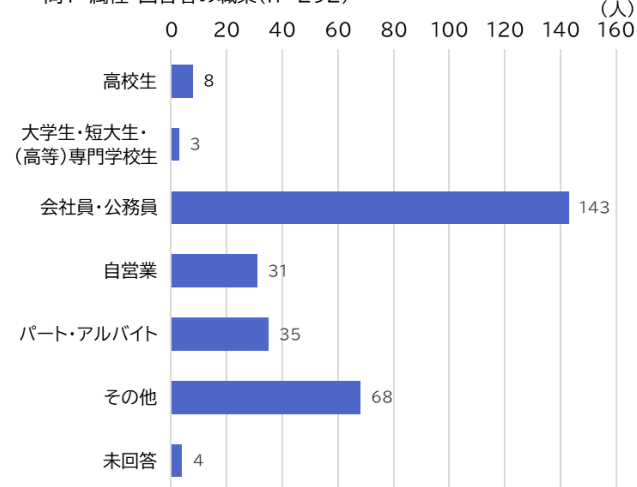
問1 属性-回答者の居住地(n=292)



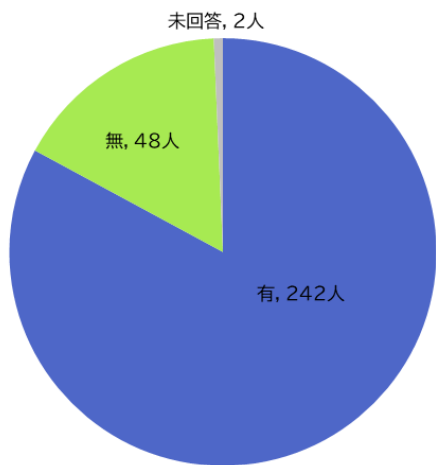
問1 属性-回答者の年代(n=292)



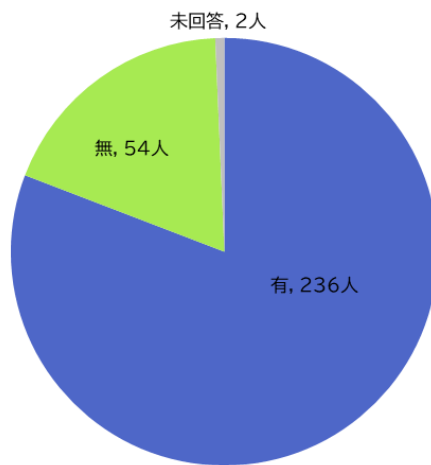
問1 属性-回答者の職業(n=292)



問1 属性-運転免許の有無(n=292)



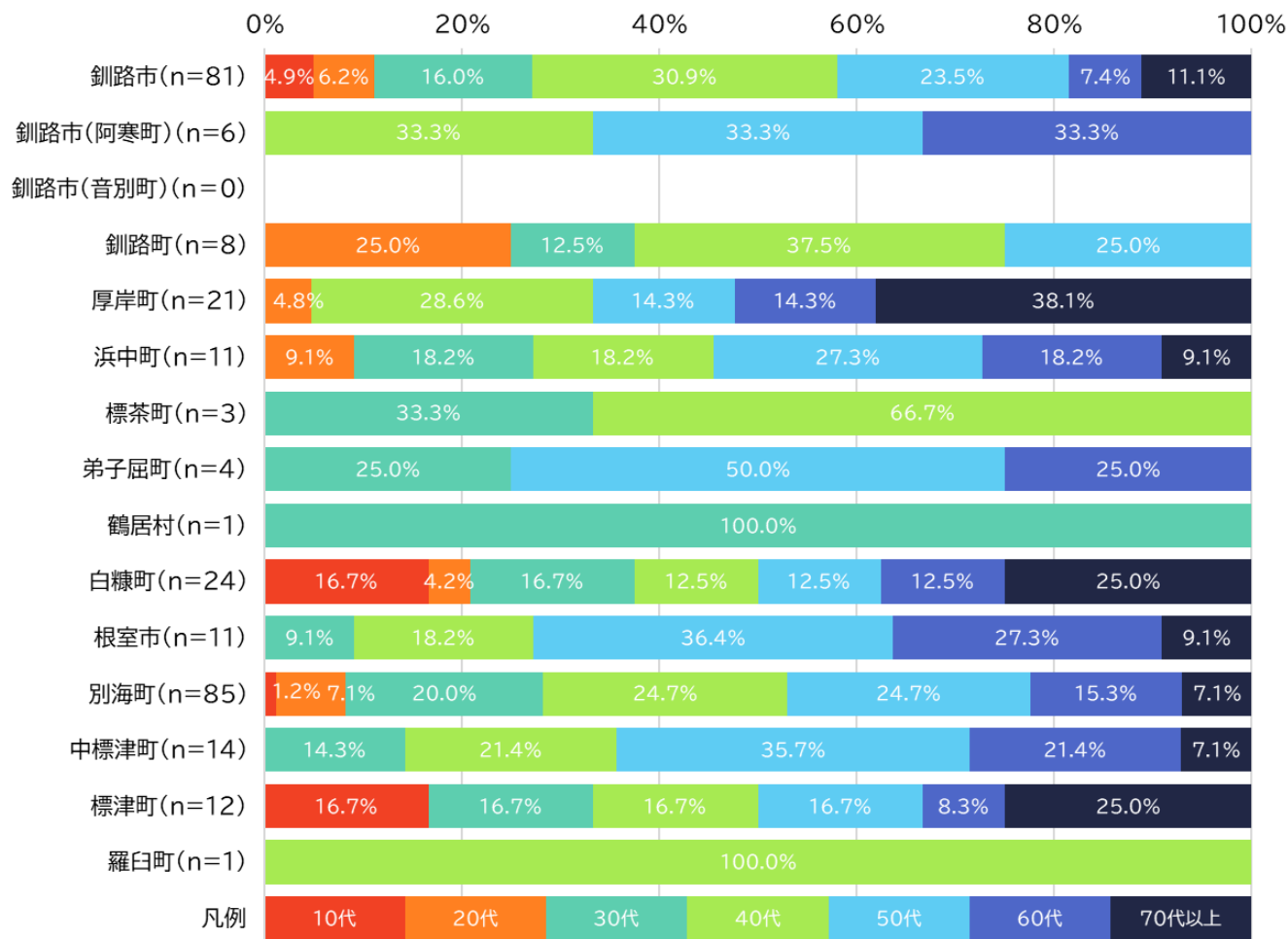
問1 属性-自家用車の有無(n=292)



2.アンケート結果 | 回答者属性

回答者の年代別居住地について、10代～20代の回答が高いのは、釧路町、白糠町、標津町である。30代の回答が高いのは、鶴居村、標茶町、弟子屈町である。40代～50代の回答が高いのは、標茶町、釧路町、釧路市、根室市である。60代～70代以上の回答が高いのは、厚岸町、白糠町、根室市、標津町、釧路市阿寒町である。

問1 属性-回答者の年代別居住地(n=292)

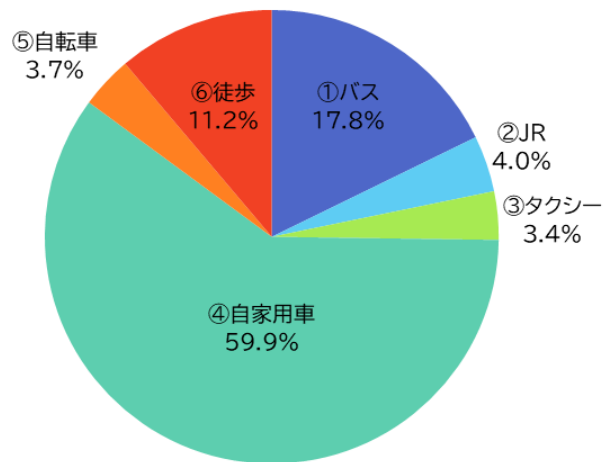


2.アンケート結果 | 日頃の主な交通手段・公共交通機関を使う頻度

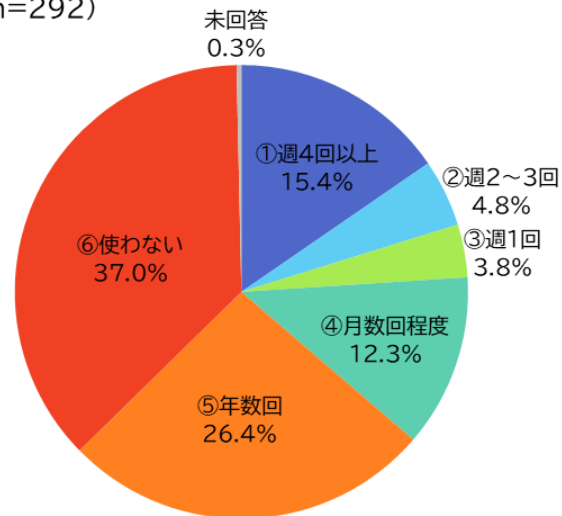
日頃の主な移動手段は、「自家用車」が59.9%と最も高く、次いで「バス」17.8%、「徒歩」11.2%と続いている。年代別にみると、30代～50代の90%以上が「自家用車」を利用している。70代以上は「タクシー」の利用割合が60%以上あることが特徴的で、「バス」や「JR」も30%程度利用している。

公共交通を使う頻度は、「使わない」「年数回」との回答者が60%以上である。年代別にみると、「使わない」「年数回」と回答した年代は、30代～50代が65%以上を占める。「週4回以上」と回答した年代は、10代、30代が高い。「70代以上」は、週2～3回、週1回、月数回程度と回答が高い。

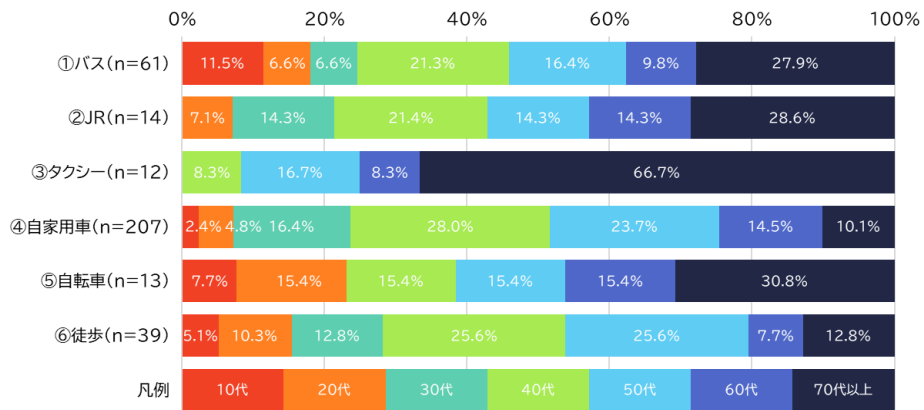
問2 日頃の主な移動手段・複数回答可
(n=292)



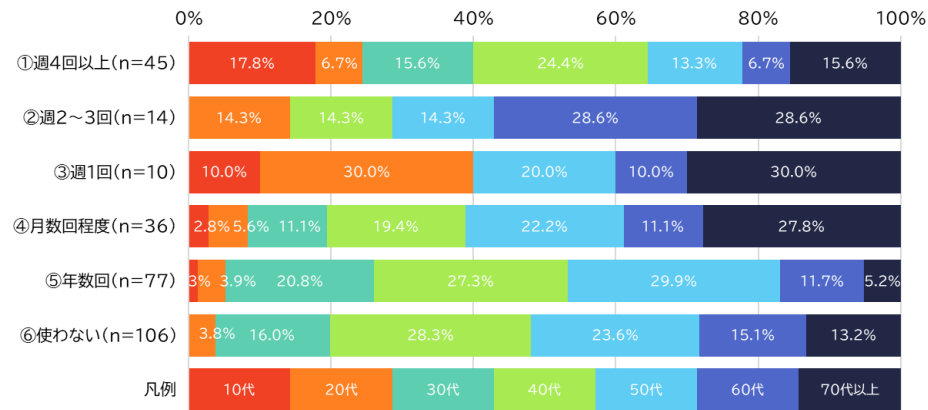
問3 公共交通を使う頻度
(n=292)



問2 年代別日頃の主な移動手段(n=292)



問3 年代別公共交通機関を使う頻度(n=292)

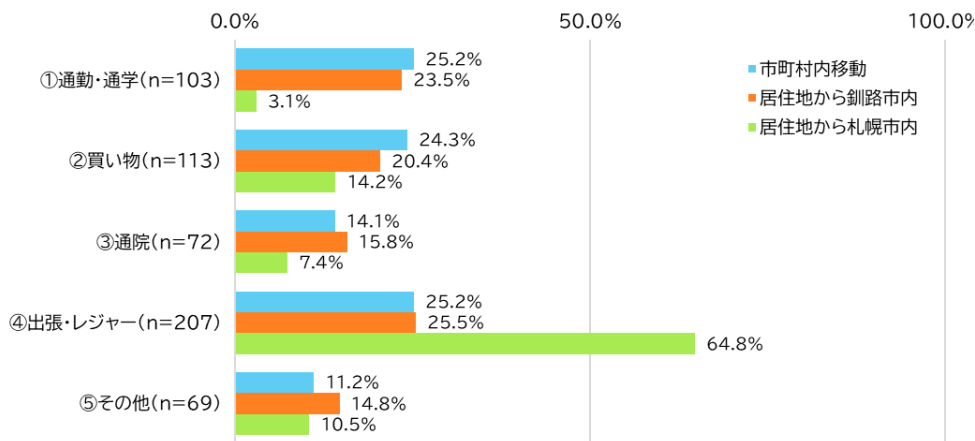


2.アンケート結果 | 移動区間別の利用目的・利用交通機関・利用時間帯

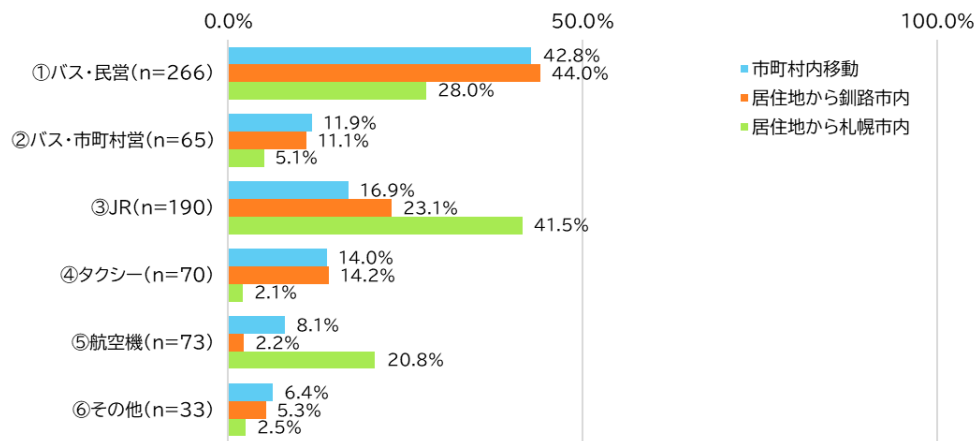
公共交通機関を使う目的は、「市町村内移動」は、「通勤・通学」「出張・レジャー」「買い物」が多い。「居住地から釧路市内」は、「出張・レジャー」「通勤・通学」「買い物」が多い。「居住地から札幌市内」は、「出張・レジャー」が多い。

利用する交通機関は、「市町村内移動」は、「バス・民営」「JR」が多い。「居住地から釧路市内」は、「バス・民営」「JR」が多い。「居住地から札幌市内」は、「JR」「バス・民間」が多い。利用する時間帯は、すべての時間帯で一定の需要があり、「9時～11時台」の利用がもっとも高く、特に札幌市内への移動(約24%)が多い。次いで、「6時～8時台」の利用率が高く、「居住地から釧路市内」(約20%)の割合が最も高い。

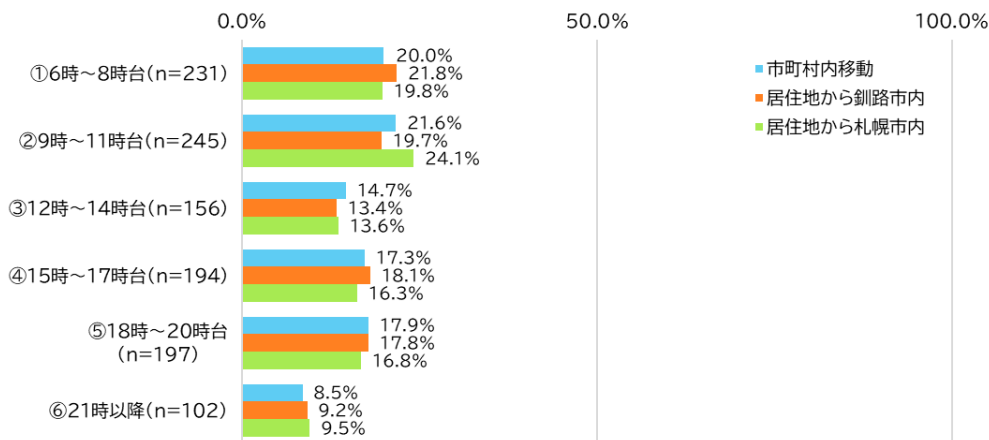
(問3で①～⑤と回答した方) 問4-① 公共交通機関を使う目的・複数回答可



(問3で①～⑤と回答した方) 問4-② 利用する交通機関・複数回答可



(問3で①～⑤と回答した方) 問4-③ 公共交通機関を利用する時間帯・複数回答可



問4-① 公共交通機関を使う目的 その他(自由記入)

<市町村内移動>

- ・ 飲酒の機会がある時 6名
- ・ 帰省の時 1名
- ・ 冬期間の移動 1名

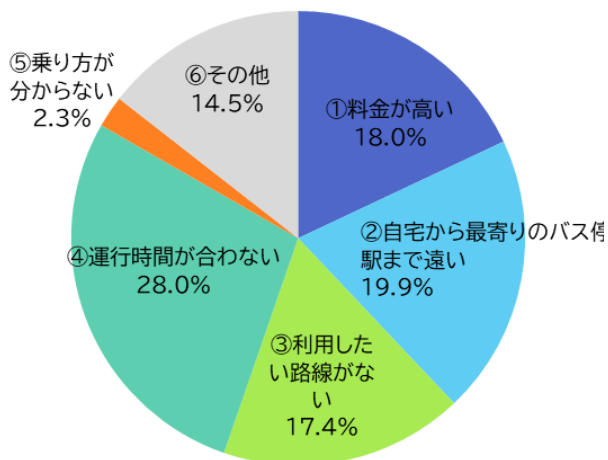
<居住地から釧路市内>

- ・ 飲酒の機会がある時 4名
- ・ 車が使えない時 2名
- ・ 帰省の時 1名
- ・ ハローワークに行く時 1名
- ・ 早朝のJRや飛行機を利用する時 1名
- ・ 道が悪い時や混雑する時 1名
- ・ 子どもとの気分転換 1名
- ・ 親の介護 1名

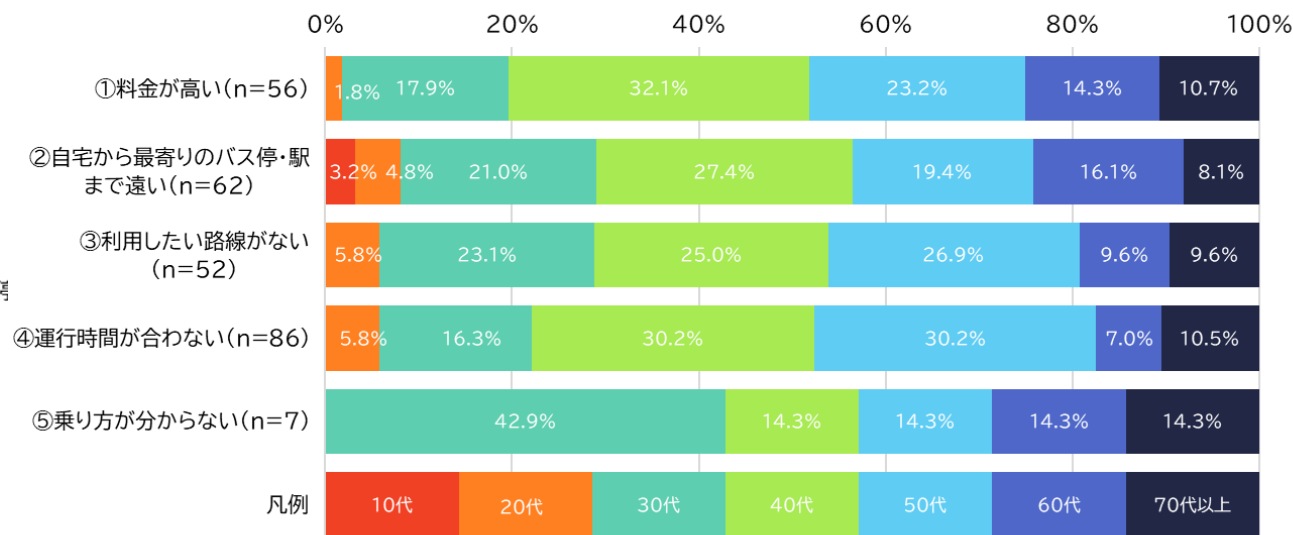
2.アンケート結果 | 公共交通機関を利用しない(利用が少ない)理由

公共交通機関を利用しない(利用が少ない)理由として、「運行時間が合わない」が28.0%と高く、次いで、「自宅から最寄りのバス停・駅まで遠い」19.9%、「料金が高い」18.0%、「利用したい路線がない」17.4%と続いている。年代別にみると、30代の40%が「乗り方がわからない」と回答しているのが特徴的である。「料金が高い」「自宅から最寄りのバス停・駅まで遠い」「利用したい路線がない」と、30代~40代の70%以上が回答している。

問5 公共交通を利用しない(利用が少ない)理由・複数回答可 (n=292)



問5 年代別公共交通機関利用しない(利用が少ない)理由(n=292)



問5 その他の内容

- ・ 自家用車がある 14名
- ・ 使う機会がない 2名
- ・ 年数回しか利用する目的がない 2名
- ・ 運行情報がわからない 2名
- ・ 便数が少なく都合が悪い 2名
- ・ 寄りたい場所がある 1名
- ・ 僻地なので使いたくても使えない 1名
- ・ インターネット(Google)検索しても出てこない 1名
- ・ 下車しても目的地まで遠い 1名

3.アンケート考察

■公共交通の利用傾向(考察)

①定期的に公共交通を利用する年代は、「10代」「40代」「70代以上」

- 10代の約18%、40代の約24%が「週4回以上」の公共交通利用がある。70代以上は回答者により利用頻度は異なるが、「週2～3回」・「週1回」・「回数程度」の項目でそれぞれ約30%程度の利用がある。
- 10代・40代は、通勤・通学での利用、70代以上は、買い物や通院等を目的に利用していると推測される。

②公共交通機関では「バス利用」が多いが、「30代」～「50代」は公共交通を使わない傾向が高い

- 日頃の移動手段として、「バス利用」が公共交通機関では最も高い。特に、70代以上の約30%がバスを利用している。その一方、「自家用車」の利用割合が約60%あり、そのうち、30代～50代の自家用車の利用割合は約68%を占める。
- 「公共交通機関を使わない」と30代～50代の約67%が回答している。30代～50代の自家用車への利用頻度が高いことが推測される。

③「運行時間が合わない」「自宅から最寄りのバス停・駅までが遠い」「利用したい路線がない」が利用しない理由

- 「料金が低い」「自宅から最寄りのバス停・駅まで遠い」「利用したい路線がない」と、30代～50代の80%以上が回答している。
- 回答者の利用ニーズとのミスマッチが生じている可能性を示唆している。

④30代では「乗り方がわからない」という意見も

- 30代の回答者の約40%が、公共交通機関を利用しない(利用が少ない)理由として、「乗り方がわからない」と回答しており、走行ルートやダイヤ、料金設定等、利用上の不明点があることから選択したと推測される。
- 公共交通について、わかりやすい情報提供に関する検討が必要であると考えられる。



各世代のニーズに合わせた、公共交通のあり方の検討が必要と考えられる。

■移動区間別の利用目的・利用交通機関・利用時間帯(考察)

①「出張・レジャー」の利用目的が多く、特に「札幌市内」への移動に集中(JR利用が高い)

- ・ 回答者の約65%が、札幌市内へ「出張・レジャー」を目的に公共交通機関を利用すると回答している。
- ・ 札幌市内への交通機関は、JR利用(約42%)・バス(約28%)・航空機(約20%)である。

②地域内での利用目的は「通勤・通学」「買い物」「通院」

- ・ 通勤・通学は、「市町村内移動」(約25%)と「居住地から釧路市内」(約23%)が主な目的である。
- ・ 買い物は「居住地から札幌市内」(約14%)よりも、「市町村内移動」(約24%)と「居住地から釧路市内」(約20%)での利用が多い。
- ・ 通院は、「市町村内移動」(約14%)と「居住地から釧路市内」(約16%)の利用が多い。高齢層を中心に、地域内の医療機関へ公共交通を利用する割合が高いと推測される。

③地域内移動はバスを利用する傾向(釧網線・花咲線沿線住民はJR併用)

- ・ 「バス(民営)」の利用が最も高く、特に「市町村内移動」(約43%)と「居住地から釧路市内」(約44%)の利用が目立つ。短～中距離移動ではバスが主要交通手段であると推測される。
- ・ 「JR利用」も一定数あり、「居住地から札幌市内」(約42%)と最も高い。その一方、「市町村内移動」(約17%)、「居住地から釧路市内」(23.1%)と、短～中距離において一定数の利用があることもわかった。釧網線および花咲線の沿線住民は日常移動において、JRを利用していることが推測される。

④すべての時間帯で一定の利用ニーズがある(通勤・通学時間帯と午前中の需要が高い)

- ・ 「9時～11時台」の利用が最も高く、特に札幌市内への移動(約24%)が多い。午前中の移動需要が高く、買い物や通院が影響していると考えられる。
- ・ 次いで、「6時～8時台」の利用率が高く、通勤・通学者による利用が中心と推測される。「居住地から釧路市内」(約20%)の割合が最も高い。
- ・ 「15時～17時台」と「18時～20時台」も帰宅時間帯として一定の需要があると推測される。
- ・ 最も利用が少ないのは、「21時以降」で、他の時間帯と比べると少ない。
(※21時以降のバスの運行は、くしろバス「文苑公住線」や都市間バスが数本運行されているのみで、JRを含め、利用できる路線が少ないことが影響していると推測される。)

「短距離移動」ではバス・JR、「長距離移動」ではJR・高速バス・航空機の利用が中心。
「地域内移動」は、通勤・通学だけではなく、買い物や通院の移動も大きな利用割合を占める。